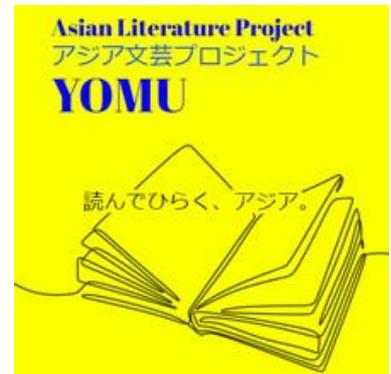


国際交流基金アジアセンター アジア文芸プロジェクト“YOMU”始動 アジアの作家の書き下ろし短編小説&エッセイを順次公開

国際交流基金（JF）アジアセンターは、アジアの文芸シーンを紹介するプロジェクト、“YOMU”を開始します。新型コロナウイルスの感染拡大によって世界中の人々の生活が大きく変化する中、また国境を越えた移動が制限される中で、アジア各国の作家たちは今何を考え、どのようなメッセージを読者に届けたいと思っているのでしょうか。

本プロジェクトでは、アジア7か国（インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、インド）で活躍する若手～中堅の作家計27人による短編小説・エッセイの書き下ろし作品を日本語と英語に翻訳して発信します。あわせて、これらの国々における文芸シーンの現在を、現地レポートや関係者へのインタビュー、動画など様々な形で発信します。どうぞご期待ください。



事業名称 : アジア文芸プロジェクト“YOMU”
<https://jfac.jp/culture/projects/p-yomu/>
主催 : 国際交流基金アジアセンター

■ アジアの現在（いま）を読む（短編小説・エッセイ）

主に2000年代以降に活動を開始し、今後も各国内外で活躍が期待される作家27人が書き下ろした作品を、日本語と英語に翻訳し、執筆言語と合わせて順次公開していきます。テーマは「パンデミックとウィズ・コロナ、ポスト・コロナの時代」。各国の言語や文化がもつ多様性を味わいながらお読みください。

初回は、マレーシアの4名の作家の新作4本を12月中旬に公開予定です。第2回以降は、12月後半から2022年3月にかけて順次公開、アジアセンターのウェブサイト、Facebookなどでご案内いたします。

多民族国家のマレーシアでは、主にマレー語と英語を介して民族間のコミュニケーションが図られていますが、各民族内では中国語やタミル語も日常的に使われています。異なる文化的・社会的背景やコロナ禍による影響を通して見えてくるマレーシアの現在を、4言語による文学世界から体感いただけるラインナップです。

ナディア・ハーン『アンサナ』（マレー語） 訳：戸加里康子

マレーシアの独立系出版社 Fixi のベストセラー作家。中学校を舞台にしたホラー小説 *Gantung* がテレビシリーズ化されマレーシアとインドネシアでヒット、同名でインドネシア語にも翻訳されるなど国内外で活躍。

テレンス・トー『セカンド・ラウンド』（英語） 訳：戸加里康子

大手英字新聞の芸術・文化記者として活躍後、現在は小説家、劇作家。子どもの妖怪をテーマとしたデビュー小説 *Toyols 'R' Us*（コメディ・スリラー）など、現代社会に生きる伝承が関心テーマのひとつ。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044
E-mail: press@jpf.go.jp

黎紫書『閉店のお知らせ』（中国語） 訳：及川茜

中国語文学界で最も期待されている作家のひとり。著作は広く中国語圏で出版されており、国内外で数多くの文学賞を受賞。邦訳作品に「白蟻の夢魔」、「山の厄神」、「北の辺地」など。（いずれも『白蟻の夢魔：短編小説集』所収、人文書院、2011年）

M.ナヴィン『光』（タミル語） 訳：深尾淳一

マレーシアのタミル語作家、タミル語の文芸雑誌 Vallinam Magazine 編集長。マレーシアのインド人コミュニティの生活や彼らが日々直面する課題、その社会経済的背景をテーマとした作品が多い。

※ これ以外の参加作家名、作品名、翻訳者名などの詳細情報一覧や、作家のプロフィールについての資料は別途ご請求ください。

■ アジア文芸シーンの現在（いま）を読む

アジアの国々の社会情勢や文化の現在を映し出す「読む」にまつわる情報を、現地レポート、インタビュー、オンライン・セミナーなどで発信します。

本プロジェクトのキックオフとして、「東南アジア文学のこれから—書き手と読み手をつなぐ」と題して、翻訳者、編集・出版界で活躍する皆さんにお集まりいただき、各国における文芸事情のあれこれを語っていただく座談会を開催しました。近年邦訳数が飛躍的に増加し、日本でも大きなブームとなっている韓国文学事情にも触れながら、日本におけるアジア文学の現代的な位置づけや翻訳出版事情の課題、今後の文芸市場での可能性などについてお話しいただきました。

座談会「東南アジア文学のこれから—書き手と読み手をつなぐ」

前編 <https://jfac.jp/culture/features/f-yomu-round-table-talk-1/>

後編 <https://jfac.jp/culture/features/f-yomu-round-table-talk-2/>

登壇者（敬称略）：

福富渉（翻訳者、タイ文学）

及川茜（翻訳者、マレーシア華語文学）

金承福（株式会社クオン代表、韓国文学）

近谷浩二（株式会社トランネット）



これに続き、タイを代表する作家の一人であり、評論家、脚本家、グラフィックデザイナー等としても活躍するマルチクリエイター、プラブダー・ユン氏がタイの現在（いま）を読み解く【タイ社会における「読書」の神話】や、インドネシアの作家らが「ニューノーマル時代の創作」をテーマにした座談会、フィリピンにおける口承文学のマンガを通じた保存・継承などの特集をお届けする予定です。ご期待ください。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp